

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 野生イネが持つ花序形態環境可塑性の解明
2. 個人研究者名
縣 歩美 (名古屋大学大学院生命農学研究科 助教)
3. 事後評価結果

本 ACT-X 研究では、近縁野生イネ 300 アクセッションにおける穂形態の重要形質（穂長、穂軸長、一次枝梗長、一次枝梗数、二次枝梗数、一穂あたり種子数）の大規模評価を完了した。また、このデータを用い GWAS 解析をおこない QTL を複数同定できた。ユニークな遺伝資源の利用と、忍耐強い表現型解析によって、これから 5～10 年の研究材料を作れたことは大きな成果と言える。

今後はトランスクリプトーム解析や QTL 解析、遺伝子同定と機能解析、また育種利用に向けた検討などの展開が期待される。